

# 夢創造

平成30年7月20日（金）no.12 文責：上田

▶オースティン先生が任期を終えられて帰国されます。お別れ集会では、「みんなも小さな冒険をしてほしい」とメッセージを伝えられました。ありがとうございました。



## 明日から夏休み 挑戦の夏に

1学期前半、夏休み前の小中別集会を行いました。集会では、保健・生徒指導等の夏休みの暮らしについて指導するとともに、私からは、子どもたち一人一人が夏休みをいろいろな挑戦の機会にしてもらうことを伝えました。

前回の学園便りでも紹介したように、夏休み中にも様々な行事があります。それらの行事をしっかりと体験の場にすることも大切でしょうし、家庭で過ごす時間に家事を進んで行うことや、読書の時間を持つことも大切です。夏休みだからこそ取り組めることはいかようにもあると思います。

前任した学校で、夏休みに家族の職場体験が宿題の学年がありました。ハウスで花を作られている家の子は花卉市場に両親と出かけたり、牛を育てておられる家の子はおじいさんと子牛の世話をしたり、父親が会社勤めの家の子は、昼ご飯を父親に届けたりと、実にいろいろな形の職場体験がありました。家族の職場体験を通して感謝の気持ちを持つことにもつながったようで、絵日記風にまとめられた「あったか家族コンクール」の作品には家族の温かさがとてもよく感じられました。

## 興味を持たせる・・・お薦めを考えてみましょう

さて、子どもは自分が何に興味を持っているのか、よくわからないものです。それなのに、夏休みにいろんなことに挑戦しようと言われても困ってしまいます。これとこれをしなくてはならないくらいにやるべきことがあっても、やらされてばかりでは、自主性は育ちません。そこで、子どもがそのときに興味を持つべきことに興味を持つように導かなくてはなりません。子どもの興味は大事にするが、興味を持ってくれないければならないことにきっちり向かわせなくてはなりません。夏休みにやりたいことを見つけられない子どもには、まさにお薦めなるものをあたえることが大切です。読書でもスポーツでも、お手伝いでも、親の仕事の手伝いでもいいんです。親から子にお薦めを示していただければよいのです。毎日やるべきことを決めて生活のリズムを変えず（特に、就寝時間や歯磨きなどは変えない習慣）、子どもに達成感を持たせることも大切です。

学校からお配りした様々な催し物の中から子どもが興味をちょっとでも示したものがあれば出かけられてもいいでしょうし、出かけなくても図書館から普段興味を覚えていることに関連しそうな本を借りて読んでみるように促してもいいでしょう。子どもが小さければ、親と一緒にできるものもお薦めです。

